

単元名: 単元名: 地球の裏側と繋がっちゃおうプロジェクト ~多文化共生とアイデンティティ~		
氏名: 里見 拓也	学校名: 大阪市立佃中学校	
担当教科: 英語、総合	実践教科: 英語、総合	
時間数: 8時間	対象学年: 中学1年	人数: 131名

【実施概要】

<p>【1】単元のテーマ・目標 (評価の観点を意識して設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 様々なルーツの文化について学び、多文化共生へ向かう人格形成を行う。 • クラスや社会の多様な生活や文化に触れ、理解しようとする意識を醸成する • 英語で情報を発信したり、受け取ったりすることで英語学習への意欲を高める • ペルーの子どもたちとの交流(動画交流)を通じて、他者の価値観との出会いを演出することで英語を活用することへの主体性を引き出す。 		
<p>【2】 単元の評価 規準</p>	(ア) 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 英語を使って自分や学校などを紹介する語彙/文法を知る • 多文化共生やアイデンティティへの知識を得る
	(イ) 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 英語を使って自分自身や学校などを紹介することができる • 多文化共生社会の実現について考えを深められる
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> • 課題に対して主体的に取り組んでいる
<p>【3】 単元設定の理由</p> <p>✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容</p>	<p>本校のある大阪市西淀川区には、人口の約5%ほどの外国人が暮らしており、大阪市全体と同程度の割合である。本校にも海外ルーツの生徒が複数在籍している。また、本校の近くには大阪マスコムがあり、ムスリム文化をバックグラウンドとする方々が暮らしており本校にもムスリム文化を持つ生徒が数名在籍している。</p> <p>加えて、日本の未来を概観すると超少子高齢化社会となり、労働力不足にともなう移民の受け入れ、技能実習生の存在といった外国人との共生が必要な未来が予想される。</p> <p>そこで本校1年生を対象として、多文化共生社会の実現、自己と向き合うことでのアイデンティティ形成を目指した授業案を作成した。</p> <p>中学1年生は、エリクソンの発達段階によると青年期への移行期である。青年期は、自己確立の段階であるため自分が何者なのかと向き合う時期となる。しかし、テストで結果がでない、部活動での成果がでないなどの経験から他者といわずに比較し自尊心を損ない劣等感を抱く生徒が少なくない。</p> <p>このような時期に、英語という言葉を通じて自己と向き合う機会を得ることで自己肯定感や学習意欲の向上を目指した授業の価値は高いと考える。</p> <p>英語という言葉は主語を明確にして話す言語である。日本語では話す際には抜け落ちてしまいがちな自分や他者を明確に言い表す言語であるからこそ、自分や他者と向き合いやすい。また、母語である日本語では曖昧にできる表現であっても、直接的な表現で正直に表現しやすい特性がある。また、英語を学ぶ意欲は英語を使う原体験がなければなかなか引き出すことは難しい。</p>	

これらの背景を受け、本単元では多文化共生とアイデンティティの形成を主目的として、南米ペルーにある日系校であるLa Union Schoolとの動画交流プロジェクトを行う。

ペルーには日本をルーツとする日系ペルー人が暮らしている。日系人の歴史を学び、日本人としてのアイデンティティを大切にしている彼らの姿から学びたい。

また、日系ペルー人との交流を通じて、母語ではない言語を用いることの楽しさや難しさ、地球の裏側であってもつながることでの国際交流の価値を体感させたい。

【4】展開計画(全8時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	[リマ市ってどこ? どんどこ?①] ・ペルーについて調べ、関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に関するアンケートを実施する ・リマ市のLa Union schoolとの動画交流を伝達し、意欲を引き出す ・リマ市のあるペルーについて調べ、まとめる ・項目:国土面積/3種類の地域/人口/それぞれの民族割合/首都/あいさつ/食文化/宗教/学校制度/観光地/民族衣装/お祭り/スポーツ 	Keynote Chromebook Googleドキュメント(ワークシート)
2	[リマ市ってどこ? どんどこ?②] ・ペルーについて調べ、関心を高める ・日系ペルー人の歴史について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの答え合わせを含めて、ペルーについてクイズや文化紹介を行う ・La Union Schoolが日系人の学校として設立されていること ・日系人の歴史について伝える ・次回に向けた多文化共生社会がなぜ必要なのか伝達。 	Keynote Chromebook ワークシート
3 本時	[多文化共生・アイデンティティとは①] ・身近な海外ルーツの魅力を感じる ・海外ルーツの生徒の自己肯定感を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なルーツのある生徒や大人の自己紹介を読み、海外ルーツへのポジティブな興味を引き出し、海外ルーツだけでなく同じ教室の中にも様々な文化があることを知る。 ・実際に海外ルーツの3人の生徒の協力をもらい、インタビューを実施した。インタビュー内容を元に英文での自己紹介を作成した。 	Keynote Chromebook ワークシート 多文化共生パズルカード
4	[多文化共生・アイデンティティとは②] ・日系ペルー人の抱える葛藤を共有し、2つのルーツを持つことでの難しさを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・日系ペルー人である大城成美さんが撮影編集されたUbicua(ユビキタス)を視聴し、日本とペルーという2つのルーツに関わる葛藤を共有し、もやもやとした問いを持つ。 ・La Union Schoolから送られて来た学校紹介ムービーを視聴する。 	Keynote Chromebook 映像作品Ubicua
5~7	[学校紹介ムービーを作ってLa Union Schoolに送ろう] ・英語で発信することの楽しさや難しさを実感する	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで学校行事や施設についての映像を作成する。 ・レポーター、カメラ、小道具、台本など役割を明確にする。 	Keynote Chromebook ワークシート
8	[自分と向き合いプロジェクトを振り返る] ・プロジェクトの振り返りを行い、自己を見つめる時間をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト全体のリフレクションを行い、互いに学んだことを共有する ・自分自身について振り返り、アイデンティティを見つめる時間をもつ ・国際交流についてのアンケートを実施する 	Keynote ワークシート

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>[チェックイン] Social Emotional Learningとして深呼吸をし、自分と向き合う時間を作る。</p> <p>[前回の振り返り] ・ペルーの概観と日系人の歴史について振り返りを行う。</p>	<p>自分と向き合える環境を作る。強制するのではなく、あくまで本人のやりやすい方法を支える。</p>	<p>・Keynote</p> <p>・Keynote</p>
<p>[Today's Goal] 多文化共生社会って「めっちゃ素敵やん!」と知る。</p>			
展開 (30分)	<p>・グループに分かれる</p> <p>[ワーク①] ・海外ルーツパズル 4人の海外ルーツを持つ生徒の生活を知る。4人のそれぞれ6枚に分かれた自己紹介パズルカードを読み、どれがどの人の自己紹介かを予想し集める。</p> <p>[ワーク②] ・ジグソー法で4つの場所に分かれて、それぞれの自己紹介を読む。</p> <p>[ワーク③] ・自分のグループに戻り、読んできた内容を共有し、正しくパズルを並べ替える。</p>	<p>・グループで協働できるような声かけや支援を行う。</p> <p>・グループで担当者を決め、4箇所に分かれる際に役割を明確にする指示を行う。</p> <p>・自分が正しい情報を得ないとグループで正しく並べ替えられないことを伝える。</p>	<p>・パズルカード</p> <p>・自己紹介シート</p> <p>・ワークシート</p>
まとめ (10分)	<p>[チェックアウト] ・グループで感想の共有をする</p> <p>・オランダの学校の事例を紹介し、多文化共生を行う上での葛藤と希望を共有する</p> <p>・リフレクションシートに本時の振り返りを記入する。</p>	<p>・「4人の生活を知って、どのように感じましたか?」「多文化共生を実現するために何が必要ですか?」という2つの問いでリフレクションする</p> <p>・正解はないことを前提として困難さや疑問を抱えながら生きていくことを伝える</p>	<p>・リフレクションシート</p>

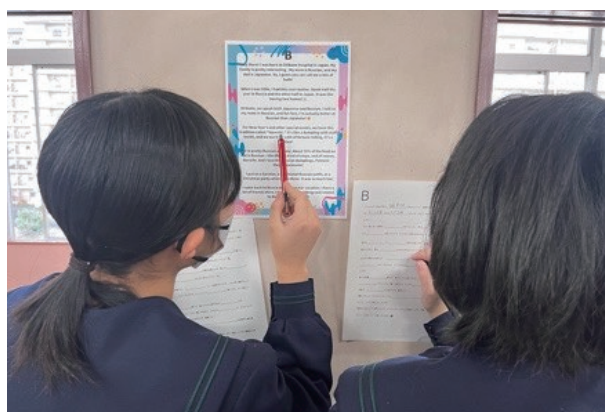
【授業実践の様子】



教室の様子



ワーク①パズルを並べる



ワーク②自分の担当箇所を読む



ワーク③グループで正しく並べる

【6】本時の振り返り

本時を終えての生徒の感想は「楽しかったー!!」であった。いくつかの点で振り返りたい。

- ・海外にルーツのある生徒へのインタビューを通じて、授業者自身も多くの気づきを得ることができた。個々の文化についての理解はもちろん、興味を持って知ることへの理解が深まった。
- ・パズルのように並び替えるという活動は明確に答えがある中で正解を探すという活動であるため生徒たちは謎解きの感覚で前向きに取り組める仕掛けとなった。
- ・英語の難易度については当該学年の教員と協議しながらであったが中学1年生にとってはレベルの高いものとなった。しかし、未履修の文法や語彙であっても興味関心が高まれば易々と乗り越えることがわかった。難しくても知りたければ辞書やインターネットを最大限活用しながら情報を集める姿が見られた。興味深かったのは翻訳アプリを使う生徒に対して「それじゃあ、力つかへんし、おもんないから俺は使わん」と言った生徒がいたことである。
- ・子どもたちは自分の知っている子のルーツに関わる内容であるからこそ知りたいと願い、主体的に取り組んでいる姿が見られた。
- ・インタビューさせていただいた生徒の保護者には前向きに関わってくださる方がおり、実際にクリスマスに飾るための装飾品を作ってください、自分の国の文化について語ってください。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

*提出時に単元を終えられていないため現状の報告となる。

授業以前にはなかった多文化共生や、アイデンティティといったテーマについて考える機会となっている。全く考えたことのなかったことが自分の周りに存在していることを意識することで自分のアイデンティティに関わる文化について意識することができるようになった。

また、海外ルーツの生徒については、特に多文化共生の授業で取り上げたことで、「家族と話す機会になったこと」や「自分のアイデンティティについて伝えることが楽しみにつながった」という感想があった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- ・以前から主体に学ぶ生徒たちであったが今回のように明確な目的を持って単元を進めることでより前向きに学習に取り組む姿がみられた。
- ・多文化共生というテーマについて考えたことのなかった生徒が今回の学びを通じて、海外ルーツについてや自分たちの身の回りにある多文化共生を知ることができた。
- ・実際に英語を使って伝えるという機会を通じて、自分自身の英語がいかに乏しく、学習が必要か実感する機会となった。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

多文化共生という言葉自体を知らない生徒も多数いる状態であった。「国際交流をしたいか」というアンケートでも、肯定的な回答は40%程度であった。西淀川という地域には多数の海外ルーツの方々暮らししているが学校での学びという点では深められていない状態であった。そのため、意識の変容という意味ではそもそも意識していないというのが正直なところであった。

(授業後)

*提出時に単元を終えられていないため現状の報告となる。

多文化共生とアイデンティティをテーマとして取り組んだが、ほとんどの生徒にとってはそもそも考えたことのないテーマであったことから意識するという点で変容が見られた。特に、海外ルーツの生徒や日系人のアイデンティティや文化に触れることができ、知らなかったことを知る過程で自分自身も振り返る機会となっていた。国際交流についてもはじめての経験であるため、どのように作用するか楽しみではあるが企画段階であっても前向きに英語に取り組む姿勢からも異文化との交流時に母語と異なる言語が使えることの有用さは伝わっているのではないだろうか。

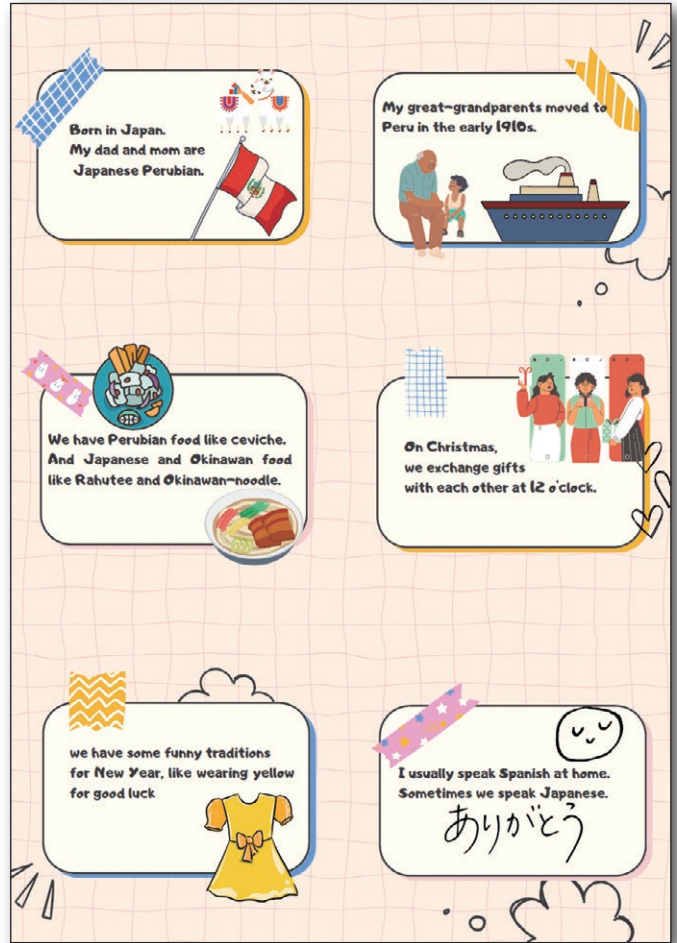
【8】自己評価	
1. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・準備段階での現地校とのやりとりが思うように進まず、授業の開始時期が遅れてしまった。 ・学びの真正性にこだわり、現地校との関わりや海外ルーツの生徒へのインタビューの教材化を行った点は苦勞したがやってよかった点でもある。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・現地校とのやりとりについては限界があるにせよ、現地で顔を合わせる段階である程度の見通しを作っていく方がよかった。 ・コンテンツが盛り沢山となる回に関しては内容を精査し、振り返りの時間をとれるような授業展開とすべきだった。
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生への理解は促進された。知らなかったことを知ることによって国際理解が進んだことは確かである。 ・日本以外にルーツを持つ生徒が主となる課題設定を行う授業があったため、彼らの存在にスポットを当てることができた。 ・国際交流に興味のなかった生徒にとっても交流の機会を作ることができ、それまでは意識していなかったことに目を向ける機会となった。
4. 備考 (授業者による 自由記述)	特になし。

参考資料:

- ・山本 崇雄 教えない授業の始め方,アルク
- ・大阪市. 大阪市の外国人住民数等統計のページ,大阪市,
<https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000431477.html>

添付資料:

多文化共生カード



添付資料:
ワークシート

B

こんにちは！私は日本の_____で生まれました。家族は結構面白いんですよ、母が_____で父が_____なんです。だから、私は両方のミックスって言えるかも！

小さい頃、私には面白い_____がありました。1年の_____で過ごし、もう_____で過ごします。まるで2つの家があるみたいでした！🏡

家では_____と_____の両方を話します。母とは_____で話しますが、実は_____の方が上手なんですよ！😊

お正月や特別な行事では、「_____」という伝統があります。これは中に物が入った_____のようなもので、ちょっとした_____に使います。とても楽しいんです！

家では結構_____番りで、食べるものの約75%が_____です。_____ (クレープの一種)が好きで、もちろん_____も。それにロシアの餃子、_____も大好きです、最高です！

3歳のときにクリスマスパーティーで_____、_____の伝統的な服を着ました。とっても楽しかったです！

夏休みにはロシアに戻りました。ロシアにもたくさんのお友達がいます。将来、ロシアに関連する何かいいことをしたいと思っています！🌍

A

みなさん、こんにちは！私の親は_____出身です！彼らは_____人で、家族のルーツは_____にあるんだ。曾祖父母は_____年代初めに_____ベルギーに移住した。

家では_____で話すんだけど、時々「_____」とか「_____」といった_____も混ぜて使うんだ。それが私たちの特別な言語ミックス！

ベルギーではクリスマスには24日に大きなお祝いがあって、_____と_____ (甘いパン)を楽しむの。25日の深夜には_____を交換して家族全員で挨拶するんだよ。とっても楽しいんだ！日本ではちょっと違って、お正月が大きなお祝いだよね。

_____ではお正月には、運気を高めるために_____の服を着たり、たくさん旅行ができるように12時に_____を持って家の周りを一周歩いたり行った面白いジンクスがあるんだよ。

うちの食卓では、_____と_____、そして_____を食べることがあるんだ。大晦日には_____と_____ (豚の角煮)を、それにベルギーの七面鳥も一緒に楽しむんだ。まるで文化のミックスが食卓に広がる感じ！

自分のルーツを誇りに思っていて、クラスでもっとみんなと共有できるのが楽しみ。

C

みなさん、こんにちは！私は日本の_____出身です。実は私のバックグラウンドは_____とっても面白くて、母親が_____で、父親が_____なんです！🇵🇭🇯🇵

小さい頃、2歳から_____、実際に_____に住んでいました！だから、_____と_____の両方を話すことができたんですが、今はあまりうまく話せません。家では_____と_____を話します。おもしろいことに、母親と_____でジョークを言ってみると、例えば「_____? Ako maganda?」と聞くと、「ヒンディ」(いいえ)と笑顔で返されるんです。

伝統について話すと、フィリピンではクリスマスが_____一番長く祝われるんですよ！🎄 私たちは_____を大切にしています。また、お正月も違います。親戚と一緒にゲームをしたり、_____を開いたりします。クリスマスには2、3つのケーキを買って、パスタやさまざまな料理を食べます。_____や_____も楽しんでいます！私たちは花火と_____で年を締めくくり、それは日本のおせちを食べる勝かさとは違って、賑やかで楽しい大晦日なんです。

家では_____を食べています。_____と_____がお気に入りです！フィリピンでは何でもご飯に混ぜるのが一般的で、日本ではマナーが悪いと言われるが、_____ではそれが普通なんです！

クラスで皆さんと、もっと私の日本とフィリピンの生活についてシェアできることを楽しみにしています。ではまたね！🌍👋

添付資料:

自己紹介カード

B

Hey there! I was born in Chibune Hospital in Japan. My family is pretty interesting. My mom is Russian, and my dad is Japanese. So, I guess you can call me a mix of both!

When I was little, I had this cool routine. Spent half the year in Russia and the other half in Japan. It was like having two homes! 🏠

At home, we speak both Japanese and Russian. I talk to my mom in Russian, and fun fact, I'm actually better at Russian than Japanese! 😊

For New Year's and other special events, we have this tradition called "Vareniki." It's like a dumpling with stuff inside, and we use it for a bit of fortune-telling. It's a blast!

We're pretty Russian at home. About 75% of the food we eat is Russian. I like Blini, a kind of crepe, and of course, Borscht. And I love the Russian dumplings, Pelmeni they're awesome!

I put on a Sarafan, a traditional Russian outfit, at a Christmas party when I was three. It was so much fun!

I came back to Russia during summer vacation. I have a lot of friends there. I hope to do something cool related to Russia in the future. 🌍

A

Hi everyone! My parents are from Peru! They're Nikkei, and our family has roots in Okinawa. My great-grandparents moved to Peru in the early 1910s.

At home, we talk in Spanish, and sometimes we add a bit of Japanese, like saying "Good morning" or "Thank you." It's our special language mix!

During Christmas in Peru, we have a big feast on the 24th with turkey and Panetón, a sweet bread. At midnight on the 25th, we exchange gifts and greet each family member. It's super fun! In Japan, it's a bit different because New Year is the big celebration.

In Peru, we have some funny traditions for New Year, like wearing yellow for good luck or walking with a suitcase at 12 o'clock for lots of travels!

At our dinner table, we eat Peruvian, Japanese, and Okinawan dishes. On New Year's Eve, we have Okinawa soba and Rafute (braised pork) along with the Peruvian roast turkey. It's like a mix of cultures on our table!

I'm proud of my roots, and I can't wait to share more with you in class. See you soon!

C

Hi everyone! I'm from Osaka, Japan. I have a super interesting background because my mom is from the Philippines, and my dad is Japanese. 🇯🇵🇵🇭

When I was little, I actually lived in the Philippines for three years from when I was two! That's why I could speak both English and Tagalog but I cannot speak English well now. At home, we speak Japanese and Tagalog. It's funny when I try joking in Tagalog with my mom. I'd ask her, "Am I pretty? Ako maganda?" and she'd say, "Hindi" (No) with a smile.

Speaking of traditions, in the Philippines, Christmas is the longest celebration in the world! 🎄 We cherish our culture a lot. New Year's is different too. We play games and have parties with relatives. For Christmas, we buy 2 or 3 cakes, eat pasta, and lots of different foods. We even have Halo-halo and Jollibee! We end the year with fireworks and karaoke. It's a loud and fun New Year's Eve, not a quiet osechi-eating one like in Japan.

At home, we eat Filipino food. Adobo and Goto are my favorites! In the Philippines, it's common to mix everything with rice. In Japan, they say it's bad manners, but it's just how we do it in the Philippines!

I'm excited to share more about my Japanese-Filipino life with all of you in our class. See you soon! 🌍🇯🇵🇵🇭